

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人静岡あらぐさ福祉会
施設名	つくしんぼ保育園
報告者（役職）	山下純子（園長）
住所・連絡先	静岡市駿河区池田1340-1
	☎ 054-297-4984
	E-mail t u k u s h i n b o @ s e a . p l a l a . o r . j p

○タイトル（保育計画）

『仲間が集う楽しい園庭に』

○主な助成備品

丸太小屋(ログハウス)特注

1. 保育計画策定の目的

2015 年 4 月に開園したばかりの静岡のつくしんぼ保育園です。つくしんぼ保育園では、こどもたちの全面発達を目指し、集団保育のよりよい実践を追及することを目指し、働くおかあさんの立場を考え、みんなに支えられて作られた第1園のたんぽぽ保育園と同様、心身ともに健康なからだを育てること、一人ひとりに丁寧によりそい 子どものやりたい思いを育てること、仲間の中で自分をおもいきり発揮し仲間とともに楽しみながら、創りあげing ことを大切に保育しています。からだを育てる手作りの給食、からだも心も育てる散歩、園庭でおもいきりできるどろんこ、仲間の中で、自分を出し、時にはけんかもしながらも、折り合いをつけることを学んだり、力をあわせて創り上げる楽しさを育てていきたいと考えています。しかし、財政的には園舎を建てるのが精一杯で、開園当時の園庭には、二つの水道施設と砂場と少しのおもちゃがあるだけでした。『子ども達が集う楽しい園庭』にしたい、そんな願いがありこのたびの助成を申請させていただきました。



開園当初の園庭

2. 具体的な実施内容

園庭に丸太小屋を作ってくださったのは、姉妹園のたんぽぽ保育園の卒園保護者のお父さん。ログハウスを作るお仕事をされているとのことで、すぐに声をかけさせていただきました。しっか



りした土台作りから始まり、山から本物の木を運んでいただき木を組んで作っていきました。その過程も子ども達と楽しませていただきました。屋根には、断熱材が入りさらに本格的なものになりました。子ども達が木の角でぶつか



っては危ないとあらゆる角も丸くしていただきました。小屋の壁には、のぞき穴があり、遠くから見ると笑顔の顔になっています。丸太小屋の前には、ちょっとしたステージ場も加えてもらいました。世界にたった一つしかない、つくしんぼ保育園オリジナルの丸太小屋です!!



はあ～、きもち～～ねえ。(気持ちいいね。)」と散歩から帰ってきて、丸太小屋に寝そべっている2才児さん達。自然の木が持つ心地よさを身体で感じているようです。

3. その成果と評価

・木のぬくもりを感じながら・・・

「はあ～、きもち～～ねえ。(気持ちいいね。)」と散歩から帰ってきて、丸太小屋に寝そべっている2才児さん達。自然の木が持つ心地よさを身体で感じているようです。



・ごっこ、つもりの世界



少しずつ‘みたて・つもり’が始まっている乳児さん達。つくしんぼの子ども達は、土、水、砂等変化が加わる物が大好きで、それを使って、ジュース、ご飯、食べ物等あらゆるものをみたてます。砂場でひとりでじっくり砂とかかわることも楽しいけれど、丸太小屋の木の

かぶのテーブルを囲むと・・・。「ご飯できたよー。」「はい、どうぞ。」「私、おかあさん。今日は、カレー!!」日々の再現遊びの始まりです。

幼児さんになると、少しずつ役割がでて遊びも組織的になります。この日は、年長さんが雪見遠足で持ってきた雪を砂場に集めたものをテーブルに移し、それを平にしてもう一度固めるんだと、はりきっていた年中さん。丸太小屋の穴から出し入れ。「はい、これ入れるよー。とってー。」「いいよー!もっとちょうだい!!」

「はい!!」子ども達の連携の声が丸太小屋に響きます。





そうそう、この穴、お店屋さんの窓口にもなるんです。「くださーい。」「はい、ちょっと待ってくださいね。今できまーす。」etc. 仲間がつながる穴です。

・笑顔をおくれば笑顔がかえる



丸太小屋の穴から外を見て
いる0才児さん達。外に
は、大好きな先生やお友達
がみえるんですね。

もう一枚の写真は、2才児
さん。「せんせー(先生)、な
にしてんの-?」とかわいい

笑顔を贈ってくれました。素敵な笑顔に私の顔もゆるみます。



自然の木のぬくもりやあ
たたかみを体感しながら、
子ども達のいろんな遊びを創りだしてくれる丸太小
屋。子ども達も、すごく楽しんでいます。



4. 今後の課題と展望

初年度の園庭は、空き地のような園庭でした。丸太小屋ができたおかげで、子ども達が集う場所がひとつできました。今後は、園庭に‘緑’も増やしたいと考えています。四季を感じられる草花は、心を癒す材料であったり、時にはままごとの材料になったり、それから虫捕りや木の実採りなど。子ども達が自ら一歩を踏み出せる遊びが増やせるような園庭にしたいなど、想像が広がります。狭い園庭ですが、子ども達が「明日もやろうね。」って、言ってくれる園庭造りをさらに進めていきたいと考えています。

以上